

平成30年度 学校評価結果報告書

兵庫県立芦屋特別支援学校

1 本年度の学校評価の手続きについて

昨年度の学校評価は、34の評価項目のうち1つを除いてA（よく達成できた）またはB（達成できた）の自己評価となり、概ね評価項目は達成できた。そこで、本年度は、評価項目について大幅に見直すとともに、校長の学校経営方針と各部・委員会の重点目標、評価項目がしっかりと連動するとともに、PDCAサイクルをより一層機能させ、より良い学校づくりに生かしていくことを目指して以下の変更を行った。

- ①シンプルでわかりやすい学校評価とするため、評価項目（実践目標）を25に絞る。
- ②各部・委員会の重点目標の優先順位の高い方から1～2個評価項目とする。
- ③実践目標については、校長先生の学校経営方針の重点を踏まえて、各部・委員会でこの1年間で達成できそうな目標を立てる。
- ④できるだけ簡潔な文章（2行程度）にして、評価項目は1項目につき1つとする。
- ⑤自己評価結果、各種アンケート結果を踏まえ、課題と改善策を策定するが、本年度の実践目標が達成できなかった場合は、原因を考え、次年度達成できそうな目標を考えるとともに、達成するための手立て等工夫する。
- ⑥評価項目は学校評議員の方にも分かりやすい語句を使用し、専門用語の使用はできるだけ避ける。
- ⑦保護者アンケート等各種アンケートも本年度の評価項目に沿って修正する。

6月に第1回学校評価委員会を開催し、校務運営委員会・職員会議で上記の変更について共通理解を図った上で、各部・委員会ごとに本年度の評価項目（実践目標）の検討に入った。そして、7月に第2回学校評価委員会で実践目標について具体的な協議を行い、8月末に本年度の実践目標が完成した。その後、9月の職員会議において職員全員で共通理解を図ったが、次年度からは作業日程を繰り上げ、1学期には各部の評価項目（実践目標）が完成し、職員全員で共通理解を図ることができるよう改善したいと考える。

次に10月の第3回学校評価委員会では、保護者アンケート、地域アンケートについて協議を行った。保護者アンケートの内容については、評価項目（実践目標）の変更に伴って見直しを行ったが、評価項目の内容は変更せず、質問（評価項目）を22から17に5つ減らすこととした。また、フォントサイズを拡大して見やすく回答しやすくなるよう工夫を加えた。砂子訪問学級保護者アンケートと地域アンケートについては、評価項目は変更はせず、昨年度と同じ内容で実施することとした。

その後、12月に学校自己評価を実施し、1月には学校評価に係る保護者アンケート（本校・砂子訪問学級）及び地域アンケートを実施した。そして、学校自己評価及各種アンケート結果を踏まえ、各分掌（校務部・学部・委員会）で、次年度に向けて、成果及び課題と改善策の策定を行い、2月に第4回学校評価委員会を開催して本年度の総括を行い、3月に学校関係者評価を実施し、本年度の学校評価結果について県教育委員会事務局に報告するとともに、本校ホームページに掲載した。

2 学校自己評価結果について

評価がAの項目は、8項目ある。総務部「創立10周年記念式典に向けて、各部・PTAと連絡調整を行う。」、教務部「出席簿と欠席状況報告書の提出を指定期日までに完了する。」、管理部「月一度の安全点検を指定期日までに完了する。」、小学部「日常生活に必要なスキルの獲得を目指した指導を行うため、視覚支援を取り入れる。」、中学部「一人一人の実態を踏まえた学習活動を計画的に実践できるよう、クラス会議、学年会、学部会で共通理解を図る。」、在宅訪問「個々のニーズに合わせた教育活動を推進するため、新転入児童の実態把握を確実に行う。」、砂子訪問「施設等の関係者や保護者と情報共有を図り、それぞれの児童生徒の実態に合わせた教育活動を推進する。」、交流及び共同学習推進委員会（高等部）「兵庫県立西宮高等学校との共同学習では、昨年度の反省に基づいて「共同学習」をさらに深めるために、本校の授業（高等部1年生職業クリーン班）を1時間開講する。」である。これらの評価項目については、次年度、さらに次のステップを目指すのか、それとも他の実践目標を立てるのか考えたい。

評価がBの評価項目は、16項目ある。その中で、学部ごとの評価ではC評価になっている項目が5つある。それは、まず学校経営の重点である①「安全安心に学べる学校づくり」に関わる評価項目（実践目標）として、情報図書部「校内LANの新システムへの移行を円滑に行う。」（高等部では評価C）、管理部「車いす利用の児童生徒の避難・誘導を迅速に行う手立てを考える。」（小学部・中学部で評価C）の2つである。特に後者については、近年、車いす利用の児童生徒が増加傾向にあり、児童生徒にとって一番大切な「安全安心に学べる学校づくり」が達成できておらず、まだまだ工夫・改善が必要であると考え小学部・中学部の職員が多いことがわかった。次に学校経営の重点である②「子どもたちに力をつける指導、個々に細かく見つめる事例研究の充実」に関わる評価項目（実践目標）では、研究研修部「研究にあたって全体での説明会を実施し、研究内容等の共通理解を図ったうえで研究をすすめる。」（高等部では評価C）、保健部「適切で効果的な保健学習を指導するため、教材・教具の充実を図る。」（高等部では評価C）の2つである。さらに、学校経営の重点である③「キャリア教育・就労支援の充実」に関わる評価項目（実践目標）では、進路指導部「進路懇談に際して、進路に関する情報を精選し、より分かりやすく伝える。」（高等部では評価C）、これら5つの項目は、全体としてはB評価で達成できているとはなっているが、学部ごとにみた場合、必ずしもそうではない結果となっているので、次年度の評価項目（実践目標）を考える際にはこのことに留意し、この項目を立てる場合は達成するための手立てをさらに工夫する必要がある。

評価がCの評価項目は、1項目ある。キャリア教育推進委員会「キャリア教育全体計画表で取り上げている項目を、個別の指導計画の目標の中に1つ以上取り入れる。」である。次年度は目標達成のための手立てをさらに工夫したいと考える。

最後に、本年度から評価項目（実践目標）をより具体的な内容としたことにより、評価することが難しくなったという意見が複数出ている。次年度は、学校自己評価を実施する前に、各部の実践目標の達成に向けた手立てと進捗状況を職員会議等で説明する機会をもちたいと考える。また、本年度は評価項目（実践目標）ができあがり、全体で共通理解を図ることができたのが9月であった。次年度は4月にできあがるよう進行を早めたい。なお、学校運営上、毎年継続して評価することが必要な項目もあるとの指摘も受けており、次年度ワーキンググループを編成して検討する予定である。

3 各種アンケート結果について

保護者アンケートについては、17項目の質問（評価項目）について、評価がAまたはBであり、概ね良好な評価結果を得た。特に質問（評価項目）1の「お子さまは、明るく元気に学校生活を送ることができていましたか」については評価平均が3.6で、昨年度に引き続き一番高い評価を得た。質問（評価項目）7の「進路説明会・進路講演会・進路通信・懇談等を通して、適切な進路選択のための情報をわかりやすく提供することができていましたか。」、質問（評価項目）12の「小・中・高が連携し、一貫した指導が行われていると思われませんか」、質問（評価項目）16の「本校では、特別支援学校のセンター的機能（地域の学校や幼稚園に行っている子どもたちのために、芦屋特別支援学校の教員が、その保護者や教員の相談に乗ったり研修をしたりするシステム）が発揮できていると思われませんか？」の3項目については、評価平均が3.0で評価はBではあるが、昨年度に引き続き、「あまりできてい」、「できていない」という一定数の保護者の意見があることも留意する必要があると考える。

また、記述式の保護者の学校への要望・感想等については、本年度は、大阪北部地震、台風21号と災害に見舞われたことを受け、小・中学部は防災避難体制についてのご意見をたくさんいただいた。また、高等部については昨年度と同様、進路指導についてのご意見をたくさんいただいた。これらのご意見については、今後の教育活動の参考にしたい。

砂子訪問学級については、本年度、全ての評価項目がAまたはBであり、概ね良好な評価結果を得た。

地域アンケートについては、昨年度、評価がDであった4項目のうち、2項目はCとなったが、2項目は本年度もDとなっている。その項目は評価項目3「県立芦屋特別支援学校ほホームページを見て、学校の情報を得ている。」、評価項目4「県立芦屋特別支援学校が配布している『芦特かわらばん』に目を通してている。」である。評価項目1「県立芦屋特別支援学校は、知的障害のある児童生徒が通う学校である。」、評価項目2「県立芦屋特別支援学校には、小学1年生から高校3年生の児童生徒が在籍していることを知っている」は、昨年度に引き続き評価がAとなっているので、芦屋特別支援学校のことは知っているが、具体的にどのような教育活動をしているのかについては関心が低いと考えられる。今後の課題として検討したい。

4 学校関係者評価について

学校関係者評価では、学校自己評価の各領域ごとに評価を実施したが、領域Ⅳ（課題教育）において改善を要するという評価を受けた。保護者アンケートの結果では、ほとんどの項目がA評価であるにもかかわらず、進路指導については毎年厳しい評価となっており、保護者がまだまだ満足できていないことを表しているとの指摘を受けた。このことを踏まえ、次年度の評価項目と達成のための手立てについて検討したい。その他の学校自己評価及び総括（成果及び課題と改善策）については適切であるとの評価を得た。また、学校関係者評価では、次のご意見もいただいた。これらのご意見も参考にして、次年度の学校自己評価項目を検討したい。

- ・学校評議員会が2月に1回だけの実施となったが、もっと早い時期に「今年度はこういうことをやります」というお話を聞きたい。年度の前半と後半に学校評議員会を開催して欲しい。
- ・入学してから卒業まで見てみると、上・下級生や同級生の間のコミュニケーション（助け合い）に成長があるように感じ、教職員の日頃の活動に敬意を表します。

- ・進路に関して、より「社会的養護」機能が必要な子どもたちに寄り添った支援を地域ぐるみで一緒に構築していただけたら幸いです。
- ・地域交流はとてもお互いにとって良いことなので、ぜひ進めていってください。